

山岳地域における歩道のあり方について

(懇談会事務局による中間整理表)

- 【前提】
- ・脆弱な自然環境下における歩道整備の限界
 - ・健全な利用の観点から利用環境を適切に確保

分類	テーマ	方針
理念	<ul style="list-style-type: none"> ・国立公園の歩道の目的 ・安全性、快適性、自然保護 	<ul style="list-style-type: none"> ・国立公園利用の基幹的施設 ・利用者層や自然条件等に応じて、多様な自然体験の場として整備、維持管理 ・その際、下記の点から配慮 自然環境の保全、景観との調和への配慮の徹底 ルートの性格に応じた安全性、快適性の確保 社会基盤、文化資産としての価値の評価
計画論	<ul style="list-style-type: none"> ・利用実態の的確な把握 ・多様なニーズへの対応 ・整備方針の明確化 ・持続可能な利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道の現況把握、利用実態等のデータを整備し、必要な整備ヶ所、整備量を把握 ・利用の質量、自然性、眺望等を勘案したルート設定を検討 ・歩道の性格（園路、探勝歩道、登山道等）に応じた整備方針、整備水準を明確化 ・利用調整地区の指定等、利用コントロールの視点も考慮
整備技術論	<ul style="list-style-type: none"> ・5カ年的整備と維持管理的整備 ・丁寧な整備の推進、きめ細かな維持管理の充実 ・施工技術の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・整備方針、整備水準に応じた「整備」と「維持管理」の適切な組み合わせ ・洗掘、裸地化防止対策としての舗装や木道、土留の整備等のほか、橋梁、トイレや標識など附帯施設を的確に配置 ・草刈り、石階段の補修等、日常的な維持管理を充実 ・伝統技術の活用も含め、素材、工法等を検討、発掘・開発し、情報提供等により普及啓発 ・公共事業との関係整理を行いつつ、グリーンカー事業の充実・活用、地域・ボランティアとの連携強化
手続き論	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家や地域等の参画 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園計画、管理計画、整備計画策定等の各段階で、専門家や地域等の参画確保の方策を検討
利用ソフト論	<ul style="list-style-type: none"> ・利用情報の整備等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルート設定や維持管理において景観の演出を工夫 ・登山、自然学習、エコツアーなど利用目的、フィールドに応じたソフト開発や情報提供を充実 ・過剰利用をコントロールするための教育や制限措置の検討
制度論	<ul style="list-style-type: none"> ・公共事業としての新たな展開 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共事業の制度の中で、しっかり事前調査を行い、整備・維持管理を進めていく工夫 ・公共事業の予算執行と会計規程の下で、伝統的技術の活用等を進める方途（歩掛かりの作成等）を検討 ・利用者の自己責任と国家賠償、保険等の考え方を整理
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに応じた方針の具体化 	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の方針を踏まえ、大雪山国立公園等において、歩道の計画・整備をモデル的に実施 ・併せて、計画・整備手法の改訂等を検討